

■新型コロナウイルスの影響

社会教育課 社会体育係

2020年春に新型コロナウイルス感染症が突如現れ、私たちの生活を一変させました。

各地域で外出自粛が呼びかけられ、同年4月に緊急事態宣言が発出、また5月には「新しい生活様式」の実践例が発表され、テレワークやオンライン会議、行動制限や活動自粛による生活スタイルの変化等、私たちの身体活動に大きな影響を及ぼしました。

人の行動は個人の意思だけで決定するのではなく、地域や社会とのつながりや、運動・スポーツがしやすい環境かどうかはその人の身体活動に影響すると言われています。例えば、一緒に運動やスポーツをする仲間がいるか、近くに公園や運動施設があるか、歩いて公共交通にアクセスできるかなどです。

新型コロナウイルス感染症まん延前の、65歳以上の高齢者についての調査では、運動を週1回以上行っていない人も、スポーツ組織に参加していない人たちは参加している人たちに比べて、要介護状態になる危険性が高いという結果が出ているそうです。

運動・スポーツは、一人で行うよりも仲間と一緒に行うことで、社会的な交流や支え合いが増えることも影響しているのかもしれない。新型コロナウイルス感染症の影響により、人との交流が減ったことで、その重要性が明るみになってきたと思われまます。

身体活動を満たす、運動・スポーツをすることは人間本来の活動です。新型コロナウイルス感染症による様々な行動の制約を受けた中、身体活動と健康の関係がより明るみに出て、改めて身体活動、運動・スポーツの価値が浮き上がってきたのではないのでしょうか。

運動・スポーツは、一人で行うよりも仲間と一緒に行うことで、社会的な交流や支え合いが増えることも影響しているのかもしれない。新型コロナウイルス感染症の影響により、人との交流が減ったことで、その重要性が明るみになってきたと思われまます。



人権だより

【問合せ先】桂川町人権センター ☎65・1187

■知らないから気づかない

先日、筑前町の人権講演会に行きました。講師である吉岡 綾さんは、10代の頃から何度も差別された経験があり、その度つらい思いをし、逃げていたそうです。母親に話すと「綾、逃げてもどうにもならんとよ。あんたがしっかり勉強（人権・同和）せんやったからよ。」と言われたそうです。学校で同和教育を受けたけど、他人事だったと綾さん。やっぱり正しく学ばないと偏見や差別に気づかないし断ち切ることができないと、今は部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくそうと活動されています。

■聴きたかったなあ…

ある新聞に連載された「記者28歳『私は部落から逃げてきた』」の執筆者である西田昌矢さんが小郡市と朝倉市で講演されると知り、聴きに行こうと心待ちにしていました。ところが、7月の豪雨で人権講演会がどちらも中止となってしまう、聴くことができず残念な思いをしました。

隣保・人権同和教育係として、人権教育・啓発をする立場でありながらも人権感覚が完璧に備わっているわけではありません。日々研鑽を積むことが必要と考えています。

■だから「人権・同和問題地域懇談会」で一緒に学びましょう！

1971（昭和46）年に始まったこの地域懇談会も、今回で50回目を迎えます。

「人権文化の町」を目指して取り組んできました。その甲斐あって、住民の皆さんの人権意識も高まったと感じています。しかし、学ばずにいるとせっかく高まった人権意識も少しずつ薄らいでいきます。誰が言ったか定かではありませんが、「人生、一生勉強」という言葉を聞いたことがあると思います。いくつになっても学べるということは素晴らしいですね。

今月中旬頃に各行政区の日程表を配布します。一緒に学びましょう！！